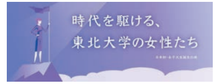
お知らせ Information

特設サイト「時代を駆ける東北大学の女性たち –日本初・女子大生誕生の地–」公開

この度、東北大学における女子学生・女性研究者の活躍に焦点を当てた特設サイトを創設いたしました。
本学は建学理念の一つとして「門戸開放」(現代の言葉で表現をすると「ダイバーシティ」)を掲げており、日本で初めて女子学生を受け入れたことにより、女子大生誕生の地となりました。
特設サイトでは第1段目のコンテンツとして、本学から女子大生が誕生することになった歴史的背景の紹介から始まり、第2段目では女子大生誕生秘話として、黒田チカの受験の思いや受験当日の流れなどが詳細に記載されています。これからも時代を駆ける本学の女子学生・女性研究者の活躍などについて紹介していきます。



みなさんは日本で初めての女子大生が東北大学で誕生したことをご存じでしょうか？今から100年以上も前、1913年に3名の女子学生(黒田チカ、丹下ウメ、牧田らく)の入学を許可した大学が東北大学(当時は東北帝国大学)なのです。
日本では帝国大学のみが正規の「大学」とされていた時代、当時まだ大学への女子の入学は認められておらず、文部省(現在の文部科学省)から帝国大学へ本当に入学を許可するのかと問いただす文書が送付されたほか、全国紙の新聞にも取り上げられるなど、当時大きな波紋を引き起こしました。
しかし、国内外から多くの優秀な学生を集めるため、革新的な「門戸開放」の理念を掲げた初代総長の澤柳政太郎の精神を受け継いだ第2代総長北條時敬は、前例のない女子学生の入学許可を断行しました。
それから100年以上の時が経過してもなお色あせることがない建学の理念は、2022年4月5日に第22代総長大野英男が宣言した、多様性(Diversity)、公正(Equity)、包摂性(Inclusion)を理念とする東北大学DEI推進宣言へと引き継がれ、大きく発展します。
東北大学の女子学生の系譜とは？東北大学が目指すDEIとは？スペシャルコンテンツをぜひご堪能ください。

(特設サイトURL)
https://www.tohoku.ac.jp/tohokuuni_women/

開催報告 Report

第1回、第2回 TUMUGサロン オンライン「科研費セミナー」

女性研究者を対象とした科研費セミナーをオンラインで開催しました。第1回目は嵩さやか教授(JSPS学術システム研究センター専門研究員(社会科学専門調査班)、法学研究科)、第2回目は中村美千彦教授(JSPS学術システム研究センター主任研究員(数物系科学専門調査班)、理学研究科)を講師にお迎えし、科研費採択に向けての説明がありました。
第1回目は佐藤 嘉倫教授(前JSPS学術システム研究センター主任研究員(社会科学専門調査班、文学研究科)、李善姫講師(男女共同参画推進センター)、第2回目は青木洋子教授(JSPS学術システム研究センター主任研究員(医歯薬学専門調査)、医学系研究科)、大隅典子教授(副学長、医学系研究科 附属創生応用医学研究センター)、田中真美教授(JSPS学術システム研究センター専門研究員(工学系科学専門調査班)、医工学研究科)がオブザーバーとしてアドバイスや質問を行いました。第1回目は人文・社会科学系の学内女性研究者を中心に24名、第2回目は自然科学系の学内女性研究者を中心に28名の方々にご参加いただきました。

●第1回(人文・社会科学系)
日　　時:8月25日(木) 12:00~13:00
開催方法:オンライン

●第2回(生物・理工系)
日　　時:8月26日(金) 12:00~13:00
開催方法:オンライン

TUMUGメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか？

新規登録随時受付中

役立つ情報が満載の男女共同参画推進センター(TUMUG)のメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか？
当センターでは、支援制度やイベント最新情報等をメーリングリストでいち早くお届けしています。
新規登録も随時受付中です。ぜひご登録ください！

対　　象 ▶ 本学に所属する教職員、大学院生、学部学生(性別不問)
登録方法 ▶ 右記QRコードよりご登録ください。

男女共同参画コラム

「ドラえもんの暖かい目」だった私がDEIに抱く期待

李善姫
男女共同参画推進センター
講師

「ママ、またドラえもんの目になっている」娘が言った。「ドラえもんの目？」。反抗期に入った娘が私に対する不満として、ママの目は時々「ドラえもんの暖かい目」になると言う。娘曰く「ドラえもんの暖かい目」というのは、笑っているようで怖い目だそうだ(本来は違う意味のようだが)。子どもに言われ、子どもの前で笑っているが怖い目をしている私を想像してみる。
私は、韓国で大学を出た後、社会生活を経験し、20代後半に来日して研究者の道をスタートした。同時に母親になることも諦められず、博士課程進学後長男を、博士号取得後長女を出産した。学業中の長男は夏休み出産、学位取得後の長女は、非常勤講師の仕事を手放さなくてもいいように3月に合わせての計画出産をした。運よく、計画出産はできたが、育児は計画通りにはならない。長男はひどいアトピー性皮膚炎で痒みが強い夜には何度もママを呼び、やっとパソコンに向かって論文に集中できる私の時間を邪魔した。娘の時はどうだったか。忙しさで幼児期を一緒に過ごす時間が少なく、小学校になった後に彼女の聴覚に問題があったことを知った。私の育児期を振り返ると、頑張ったとは言えるが、楽しめたとは言えない自分がいる。時間的にも、精神的にも、経済的にも不安定で余裕のない日々だった。アップアップの状況の中での子育てに、いつの間にか私の目は、笑っているが怖い目の「ドラえもんの暖かい目」になっていたのかも知れない。
私の両立奮闘期からはだいぶ時間が経った今、より明るい現実があるのかなと期待してみるが、現状はどうなのか。本学は2001年に「男女共同参画委員会」を設置し、これまで様々な事業を実施してきた。着実に女性研究者の数も増え、活躍ぶりも著しくなっている。しかしながら、課題も多い。未だにジェンダーギャップは解消されておらず、社会には性差における無意識なバイアスが蔓延している。一時期流行りだったワークライフ・バランスという言葉も競争社会を生きる我々には、机上の空論にさえ見えてしまう。特に若い研究者は男女を問わず、不安定なポストを橋渡ししながら、そもそも結婚、出産、育児というライフイベントを選択、あるいは満喫する余裕すらないように見える。
今年4月、本学はDEI宣言をした。宣言文には「全ての学生・教職員が各人の能力を最大限発揮できる公正性が保障された環境を提供し、多様な属性・個性を持つ構成員の誰もが歓迎、支援、評価される包摂性に富む組織を実現します」と書かれている。今度は性差による格差是正だけでなく、全ての構成員を対象に誰も排除される事なく、自分の持つ能力をイキイキと発揮できる組織を目指す。このDEI推進を成功させる鍵は何か。それは、これらの宣言を他人事ではなく、自分事として向き合う構成員の参画なのではないだろうか。相互に聞く耳と話す勇気を持って参画していく姿勢があれば、変化は起きる。東北大学の新たな幕開けに期待を寄せる。

東北大学サイエンス・アンバサダー
ー女性研究者支援モデル育成ー

サイエンス・アンバサダー(SA)の最新情報はコチラからご覧いただけます！
http://tumug.tohoku.ac.jp/blog/category/sa_event/

東北大学サイエンス・エンジェル(SA)は、2022年4月より東北大学サイエンス・アンバサダーへ名称変更しました。SAは、小中高校生に対して科学(自然科学・人文科学・社会科学)の魅力を伝えつつ、身近なロールモデルとなることを通して次世代の研究者を育成することを目的として、平成18年度から平成20年度に実施された科学技術振興調整費「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」で誕生しました。事業終了後、東北大学独自の活動として継続しており、SAらは東北大学に所属する博士課程前期(修士)および後期(博士)の女子大学院生によって構成されています。年度毎に学内で公募され、採用者は総長によって任命を受けます。2022年度は53名のSAが任命され、6月3日(金)にオリエンテーションがオンラインで行われました。これまでに高校生を対象としたオンライン出張講義や小学生を対象とした科学イベント、「女子大生の日記念 TUMUGオープンキャンパス」(オンラインイベント)、「東北大学サイエンス・アンバサダーnote」(note)などの活動を行っています。

TUMUG スケジュール

10月 October

6 木 **東北大学DEIセミナー(仮)**
開催方法／オンライン
開催時間／11:00~12:00
対象／本学研究者、教職員、その他
講師／モナ・ネメール博士
(カナダ連邦政府首席科学顧問)

11 火 **第24回オンラインランチミーティング**
開催方法／オンライン
開催時間／12:00~13:00
対象／本学研究者、教職員

28 金 本部締切 **ベビーシッター利用料等補助(第2回)**
対象／育児を行う教員、技術職員、ポスドク、博士学生等(男女)
※第3回:1月27日(金)、第4回:3月10日(金)
※詳しくはTUMUG Webをご確認ください。

12月 December

13 火 **第25回オンラインランチミーティング**
開催方法／オンライン
開催時間／12:00~13:00
対象／本学研究者、教職員

最新情報はTUMUG Webをご確認ください。

各記事の詳細および当センターの活動予定は、TUMUG WebやSNSをご覧ください。

TUMUG
東北大学男女共同参画推進センター
Tohoku University Center for Gender Equality Promotion
TEL.022-217-6092
所在地　〒980-8577　宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
Mail　office@tumug.tohoku.ac.jp
WEB　http://tumug.tohoku.ac.jp/

Web　facebook　twitter

男女共同参画の未来を考える情報誌「つむぐ」
令和4年9月号
TOHOKU UNIVERSITY
TUMUG
Sep. 2022 Vol.21

「TUMUG」とは、「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。

DEI 推進宣言記念シンポジウムを開催

東北大学は、本年4月5日に多様性、公正性、包摂性を理念として掲げる「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI) 推進宣言」を発出しました。

2段め左より、李善姫講師、芳賀満総長特別補佐、北川尚美教授、AROW(椎野氏、小野内氏、吉田氏)、小川真理子氏、田中真美副理事
1段め左より、山田秀雄氏、義本博司氏、藤井輝夫氏、大野英男総長、Gaye Rowley氏、佐々木泰子氏、大隅典子副学長

Headline News

東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進宣言記念シンポジウム「多様性と公正性を包摂する大学を目指して」を開催しました。

DEIの精神を醸成し、DEI実現に向けた取り組み推進の一環として開催。

第1部では、来賓の野田聖子氏(内閣府特命担当大臣(男女共同参画)、女性活躍担当大臣)、義本博司氏(文部科学事務次官)、佐々木泰子氏(お茶の水女子大学長)、山田秀雄氏(弁護士)、浅川智恵子氏(日本科学未来館長)から挨拶の後、藤井輝夫氏(東京大学総長)より「多様性の海へ:対話が創造する未来」、Gaye Rowley氏(早稲田大学図書館長)より「Living Diversity」、Ana Mari Cauce氏(ワシントン大学長)より「Building Excellence Through Diversity」(ビデオメッセージ)と題し、基調講演を行いました。第2部では、本学においてダイバーシティ・共同参画推進の中心となる教員による「本学におけるDEI推進」をテーマとする講演、第3部では、本学学生団体より、「学生から見たDEI」について講演を行い、それぞれの立場でDEIを考え、DEIについて議論しました。当日は、オンサイト・オンライン合わせて約400名(関係者含む)の皆様にご参加いただきました。

日　時:6月20日(月)13:00~16:00
開催方法:ハイブリッド開催(会場・オンライン)　対　象:学内教職員、学生、一般の方

藤井輝夫氏

Gaye Rowley氏

Ana Mari Cauce氏

会場の様子

特集1　特集2　特集3　Special Feature

…両立支援　…顕彰制度　…次世代育成　…女性リーダー育成　…イベント

2021年度 第5回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者 コラム

（むらさきせんだいはぎ）

第5回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」では、計22名の申請を受け、人文・社会科学分野、理学・工学分野、農学・生命科学分野、医歯薬学・保健分野の4分野から各1名、合計4名の受賞が決定しました。3月3日（木）に国際女性デー記念第5回紫千代萩賞授賞式・受賞講演会授賞式を実施し、受賞者には表彰状ならびに副賞が授与されました。

詳細は上記のQRコードより閲覧可能です。

人文・社会科学分野

岡田 彩

情報科学研究科 准教授

受賞課題：

市民社会における寄付・ボランティア活動の研究

寄付やボランティア活動は、なかなか不思議な行動です。別にやらなくても困りません。さらに、私的な資源を個人や組織が投じる行為でありながら、その帰結として、社会課題の解決など、公的な目的達成に関わるという構造を持っています。こと日本社会において、寄付やボランティア活動は、他者や社会に貢献する「尊い」「良い」行動として語られる傾向が見られます。しかし、それは、一人ひとりにとって異なる意味を持ち得る行動ではないでしょうか。このような立場から、現代社会における寄付やボランティア活動の特徴を探求しています。

今後の抱負：

人々が寄付やボランティアをする背景は、実に多様かつ多層的であると考えています。「社会に貢献する」といったフレーズが頻繁に聞かれますが、自己中心的な考えからの行動かもしれませんし、特別な考えがないこともあり得ます。社会学という学問分野を基盤に、寄付やボランティア活動が持ち得る意味の幅広さを描き出す作業を通じ、寄付やボランティア活動に向き合う新たな視点の提示を目指しています。そうすることで、NPOなどが、より効果的・効率的に、寄付やボランティア活動を促進できるよう、貢献していきたいと考えています。

理学・工学分野

郭媛元

学際科学フロンティア研究所 助教

受賞課題：

脳機能解明に向けた多機能ファイバセンサの開発に関する研究

私は脳機能の理解や脳病態の解明のため、脳内の多くの信号を同時に測定・操作できる技術を開発しています。光通信用のファイバは日常生活の中で広く用いられていますが、私はその光ファイバを制作する熱延伸技術を改良し、一本の細いファイバの中に光のみならず、電極、微小流路、バイオセンサ、アクチュエータなどの機能も集積できる多機能ファイバの開発を行っています。さらにこのファイバを利用し、今までの技術では解決できなかった生物学、特に脳科学の課題にも挑戦していきたいと考えております。

今後の抱負：

多機能ファイバは生体内の多様な信号とインターフェースすることができますが、今後、生体内への応用だけではなく、材料・電気化学・電子工学・医学などの分野を融合し、汎用性がある多機能ファイバ（繊維）技術の基盤を構築し、ヘルステックの次世代を担うスマートファイバ及び衣服の研究開発を進めていきたいと思います。多機能繊維応用技術について、社会での実用化に向けた展開も積極的に模索していきたいと考えています。

農学・生命科学分野

簡 梅芳

環境科学研究科 助教

受賞課題：

植物・微生物による環境浄化機構の解明および有効利用の研究

「バイオ」と「環境」をキーワードとして、生物による環境応答機能の解明とその応用のための研究を行っています。これまでは水銀やヒ素、PAHsなどの環境汚染物質に対して、環境微生物をはじめ、植物・微生物のそれぞれおよび両者からなる「複合生物系」による汚染浄化メカニズムの解明を行っています。また、環境中に起きうる生物間相互作用に着目し、生物間相互作用への理解と活用による、これまで課題とされてきた生物学的環境技術の制御・効率化に取り組んでいます。

今後の抱負：

微生物をはじめ、生物は環境の変化（刺激）に順応し、様々な応答機能を示しています。これからも生物による特殊機能や環境・生物間相互作用を解明し、生物学的環境技術の確立と適用を目指して研究を展開したいと考えます。環境汚染浄化の他、金属等の環境資源に対する生物応答機能の解明と活用に取り組み、その成果を資源循環型社会の実現に貢献して参りたいと存じます。一方、東北大学では日本全国を始め、留学生も多く受け入れるため、様々なバックグランドを持つ学生の多様性を生かし、世界各国に起きうる環境問題の解決に役に立つバイオテクノロジーの開発に寄与する研究・教育活動に携わりたいと存じます。

医歯薬学・保健分野

前川 素子

医学系研究科 准教授

受賞課題：

脂質代謝に着目した精神疾患病態メカニズムの研究

精神疾患の病態形成には、遺伝要因と環境要因の両方が関与すると考えられています。環境要因に関しては、発達期の環境の変化が様々な疾患の発症リスクになるという"Developmental Origen of Health and Disease; DOHaD仮説"が知られています。私は環境要因の中でも特に栄養に着目して、脳発達期の脂質代謝障害が精神疾患の病態形成に関わる可能性について研究しています。将来的に、この研究が精神疾患の病態メカニズム解明、および精神疾患の診断・治療・予防法の開発につながることを期待しています。

今後の抱負：

研究については、病に苦しむ患者様のために、精神疾患の病態解明と治療法・予防法の開発を目指します。教育については、医学部の肉眼解剖と神経解剖の講義・実習について、学生にわかりやすく指導できるよう努力します。また、大学院生や学部学生の研究指導については、学生が自ら独創的な研究を行えるようにサポートしていきます。

2022年度前期　イベント開催報告

DEI推進宣言

東北大学は1907年の設立当初より、開学の理念として「門戸開放」、「研究第一」、「実学尊重」を掲げ、多様な人材に入学の扉を開きました。その結果、1913年には日本で初めての女子大学生が誕生しました。留学生にも早くから門戸を開いていたことも含め、本学では黎明期から多様性に富んだ環境や意識を育んできました。

このたび、東北大学創立115周年・総合大学100周年を迎えた節目の年に、また国立大学法人として第4期中期目標期間のスタートを切った2022年4月に、男女共同参画の更なる推進と、多様性、公正性、包摂性を理念として掲げる「東北大学ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DEI）推進宣言」を発出し、全ての構成員がダイバーシティを尊重し、かつ、全ての構成員のダイバーシティが尊重されるよう、意識啓発や環境・制度整備を促進します。

● 記者会見の様子（2022年4月5日実施）

2022年4月5日15時～16時に、片平北門会館エスパスとオンラインによるハイブリッド形式で記者会見を行いました。

総長が東北大学ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DEI）推進宣言を発出し、その後湯上工学研究科長、北川工学研究科長補佐から工学研究科のDEI推進プロジェクトの発表がありました。

● 特設ページ開設（2022年4月5日公開）

東北大学DEI推進宣言（全文）の他、学内相談窓口へのリンクも掲載されています。

（特設ページURL）
http://tumug.tohoku.ac.jp/dei/

2022年度 TUMUG オンラインランチミーティング

日時：第22回/1月11日（火）、第23回/3月8日（火）各回12:00～13:00
開催方法：オンライン　対象：本学研究者、教職員

TUMUG オンラインランチミーティングは、新型コロナウイルス感染拡大防止をきっかけにスタートしました。東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目指し、定期的に開催しています。これまでに23回開催され、毎回40名前後の方にご参加いただいています。

■ プログラム

第22回：田中 真美
（男女共同参画推進センター センター長）
渕辺 健
（人事給与課任用第二係 係長）

第23回：越智 郁乃
（文学研究科 准教授）
北村 美和子
（災害科学国際研究所 特任研究員）

女子大生の日

日 時：8月19日（金）13:00～14:50
開催方法：オンライン　対 象：学内教職員、学生、一般の方

東北大学は初代総長であった澤柳政太郎により打ち出された「門戸開放」という理念のもと、1913年（大正2年）8月21日、全国に先駆けて女子に東北帝国大学（現・東北大学）の門戸を開きました。2020年、東北大学は、この「8月21日」を「女子大生の日」として登録しました。8月19日、「女子大生の日」を記念し、「女子大生の日記念 TUMUGオープンキャンパス」が開催されました。

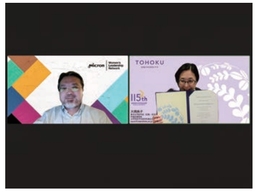
はじめに、Micron Technology Foundation Inc.様への感謝状贈呈式が行われました。大隅副学長が謝辞を述べ、白竹茂氏（Micron Technology Foundation Inc. Corporate Vice President）よりご挨拶をいただきました。

その後、東北大学の女子大学院生である東北大学サイエンス・アンバサダー（SA）による研究発表とディスカッションが行われました。SA1名が「母親の身体活動はどの程度子どもに伝わるか?－女性と子どもの運動・健康を考える－」というテーマで発表した後、パネリストとして参加したSAと渡邉由美子特任教授（高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門 国際化教育開発室）が加わり、ディスカッションを行いました。

また、学部選択や入試、大学での生活、卒業後の進路について等、大学進学に興味を持つ参加者の疑問・悩み・相談に、SAが回答しました。

当日は、95名（関係者含む）の皆様にご参加いただきました。

記念写真



感謝状贈呈式

SAによる研究発表

ディスカッションの様子

1907年に設立した東北大学は、開学の理念として「門戸開放」「研究第一」「実学尊重」を掲げ、多様な人材に入学の門戸を開放し、1913年には日本で初めて女性の大学生の入学を受け入れました。留学生も含め、本学では黎明期からダイバーシティを重視して参りました。

東北大学はこれまでの男女共同参画に関する宣言、行動指針、基本方針を継承しつつ、これらをさらに発展させるために「東北大学ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョン（DEI）推進宣言」を2022年4月5日に発出しました。この宣言では、多様性、公正性、包摂性を掲げ、全ての構成員がダイバーシティを尊重し、かつ、全ての構成員のダイバーシティが尊重されるよう、意識啓発や環境・制度整備を促進することを謳っています。

創立115周年、総合大学100周年を迎える東北大学は、本学が誇る総合知を結集し、現在のみならず未来の人類の幸福をも目指して新たな社会価値の創造へ向けて挑戦し続けるために、キャンパス内外におけるDEIを推進します。

2022年4月5日
男女共同参画推進センター センター長
田中 真美